

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-173239

(43)Date of publication of application : 09.07.1996

(51)Int.Cl.

A45D 40/00

(21)Application number : 06-320434

(71)Applicant : YOSHIDA KOGYO KK &lt;YKK&gt;

(22)Date of filing : 22.12.1994

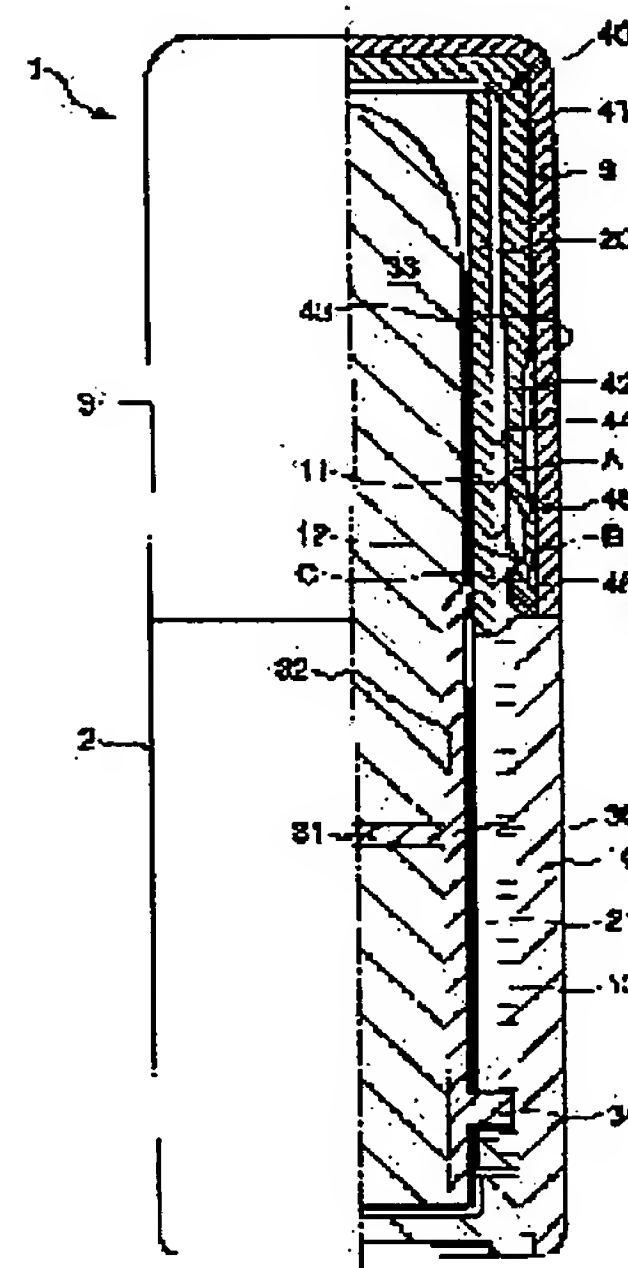
(72)Inventor : YUZUHARA YUKITOMO  
KUMAGAI TOMOAKI

## (54) ROD-LIKE MAKE-UP MATERIAL CONTAINER

## (57)Abstract:

**PURPOSE:** To enhance the seal ability by forming a thin wall fitting seal part having a seal surface, and an annular protruberance and an inward bead, on a seam member.

**CONSTITUTION:** A seal member 40 has a cylindrical thick wall part 41 and a thin wall cylindrical fitting seal part 42 which incorporates a tapered surface 43 having its wall thickness that gradually decreases from the thick wall part 41, and that is spaced from the inner peripheral surface of a cap 3, a seal surface 44 formed below the tapered surface 43 and adapted to overlap with and make contact with the outer peripheral surface of a fitting cylindrical part 11 of a body cylinder 10 so as to seal the body cylinder 10, an annular bead 45 radially bulging out from the seal member 40 and made in press-contact with the inner peripheral surface of the cap 3 by a predetermined distance, and an inward bead 46 formed below the annular protruberance 45 and adapted to be engaged with a dowel 12 of a fitting cylindrical part 11. The inward bead 46 is engaged with the dowel 12 so as to hold the fitting condition between a cylindrical container body 2 and the cap 3. Further, the seal surface 44 overlaps with the outer peripheral surface of the fitting cylindrical part 11 so as to ensure the sealing.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

06.11.2001

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

3590116

[Date of registration]

27.08.2004

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-173239

(43) 公開日 平成8年(1996)7月9日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

A 4 5 D 40/00

識別記号

片内整理番号

F I

技術表示箇所

T  
U

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平6-320434

(22) 出願日 平成6年(1994)12月22日

(71) 出願人 000160223

吉田工業株式会社

東京都墨田区立花5丁目29番10号

(72) 発明者 柚原 幸知

東京都墨田区立花5丁目29番10号 吉田工業株式会社内

(72) 発明者 熊谷 倫明

東京都墨田区立花5丁目29番10号 吉田工業株式会社内

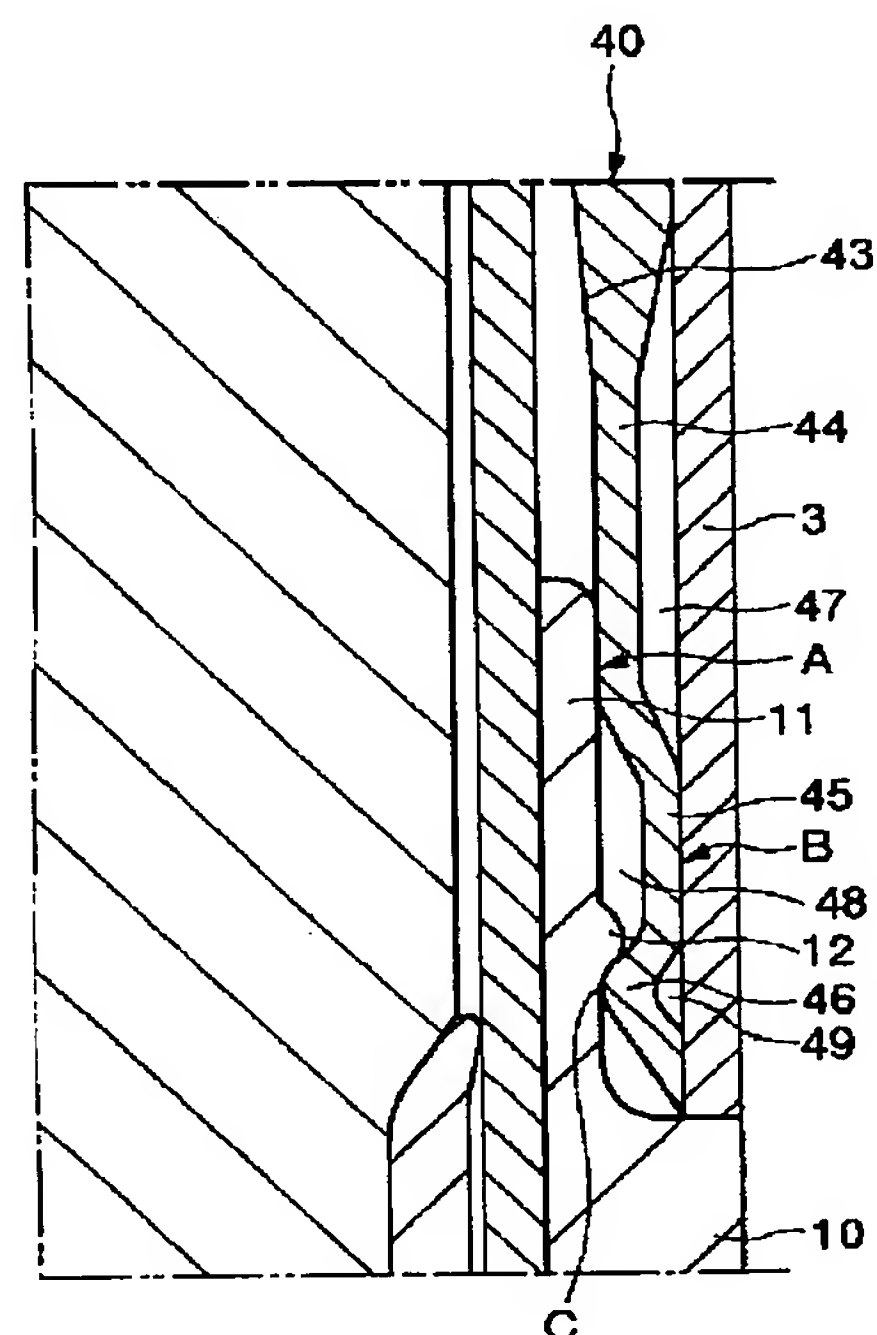
(74) 代理人 弁理士 一色 健輔 (外2名)

(54) 【発明の名称】 棒状化粧料容器

(57) 【要約】

【目的】 しっかりとした反力を得て良好な気密状態を得ることができる棒状化粧料容器を提供する。

【構成】 嵌合シール部42は、肉厚部41から順次肉薄に、かつキャップ3内周面から離隔するように形成されたテーパ面43と、これの下側に一連に形成されて本体筒10の嵌合筒部11外周面と重なって当接するシール面44と、このシール面44の下側に形成され、シール部材40の径方向外方へ膨出されてキャップ3の内周面と所定の距離に亘って圧接される環状隆起部45と、この環状隆起部45の下側に形成され、嵌合筒部11のダボ12に下側から係合する断面くの字状の内向き突起46とを備える。内向き突起46は、ダボ12に下側から係合し、嵌着部Cとなる。シール面44は、嵌合筒部11の外周面に重なり合い、シール部Aとなる。環状隆起部45がキャップ3の内周面に圧接する部分が、当該シール部分Aに対して圧力をかける弾発部Bとして機能する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 本体筒内に身筒及び化粧料皿筒をこの順序で配置した筒状容器本体と、これに嵌装される筒状キャップとで構成される棒状化粧料容器において、該本体筒には、その上部に該キャップと嵌合される嵌合筒部を形成すると共に、該嵌合筒部の外周面下部にその周方向に沿って間隔を隔ててダボを突出形成し、該キャップ内には、その内面に沿って該嵌合筒部と嵌脱自在に嵌合する樹脂製のシール部材を設けると共に、該シール部材に、該嵌合筒部よりも上方位置から下方に向

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、キャップの嵌合構造に

## 【0002】

【従来の技術】 一般に、口紅容器のような棒状化粧料容器においては、揮発性化粧料の乾燥固化を防止するなどの観点から、キャップの嵌合係止機能と気密機能とを組み込むことが行われている。

【0003】 この種の棒状化粧料容器における気密構造としては、従来実公平 5-34579 号公報に開示されたものがある。これは、図 4 及び図 5 に示すように、筒状容器本体の外側に配置される中具筒 107 の嵌合部 107a に着脱自在に嵌合する筒状キャップ 113 の内側に、このキャップ 113 と同形状をなす樹脂製の帽体 114 を接着剤などの適宜の手段によって嵌着固定し、この帽体 114 の下部に内径拡幅部 115 を形成して適度の弾力性を有する嵌合壁 114a を設け、この嵌合壁 114a とキャップ 113 との間に嵌合壁 114a の弾力性を助長するための間隙部 116 を介在せしめ、嵌合壁 114a の下部に外側に反り返りその先端がキャップ 113 の内壁面に接触する接片 114b を設けると共に、帽体 114 の嵌合壁 114a 内周面に突設した環状凸部 114c が中具筒 107 の外周面に密接し、また帽体 114 の嵌合壁 114a に形成した嵌合凹部 114d に中具筒 107 の外周面に突設した環状凸部 107c が密嵌係合するように構成したものである。なお、101 は袴筒、102 は螺旋筒、103 は螺旋溝、104 は身筒、105 は環状溝、106 は内周リブ、108 は化粧料皿、109 は環状リブ、110 は脚柱である。

【0004】 かかる構成の下では、キャップ 113 を被せて装着すると、帽体 114 の嵌合壁 114a が中具筒 107 の嵌合部 107a に嵌合し、この嵌合部 107a

の外周面に帽体 114 の環状凸部 114c が密接すると共に、嵌合部 107a の外周面に突設した環状凸部 107c が帽体 114 の嵌合壁 114a に穿った環状凹部 114d に密嵌係合し、キャップ 113 の係止状態が確保されると共に、容器本体内に対する外気の侵入が阻止できるようになる。すなわち、中具筒 107 に対する環状凸部 114c の緊密な接触と、環状凹部 114d に対する環状凸部 107c の密嵌係合という、2箇所において気密に封止されるため、1箇所の場合に比べ、より良好な気密効果が得られる。

## 【0005】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、従来技術の場合、気密作用をもたらす押圧力は、嵌合壁 114a の下部に設けた接片 114b が外側に反り返りその先端がキャップ 113 の内周面に接触することによって確保される。つまり、環状凸部 114c と環状凹部 114d という 2つの接触箇所は、それから離れた接片 114b の箇所を反力点として、内側に向かう弾性復帰力をそれぞれの箇所で得るものであった。この場合、環状凸部 114c と環状凹部 114d という 2つの接触箇所においてもキャップ 113 側は空隙となっているので、環状凸部 114c 及び環状凹部 114d は弾力的に撓むこととなり、しっかりした反力を得ることができないおそれがある。このため、環状凸部 114c の嵌合部 107c に対する接触圧及び環状凹部 114d の環状突起 107c に対する接触圧を保持しておくことが難しいものであった。

【0006】 そこで本発明の目的は、上記課題を解決し、しっかりとした反力を得て良好な気密状態を得ることができる棒状化粧料容器を提供することにある。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】 かかる目的を達成するために本発明に係る棒状化粧料容器は、本体筒内に身筒及び化粧料皿筒をこの順序で配置した筒状容器本体と、これに嵌装される筒状キャップとで構成される棒状化粧料容器において、該本体筒には、その上部に該キャップと嵌合される嵌合筒部を形成すると共に、該嵌合筒部の外周面下部にその周方向に沿って間隔を隔ててダボを突出形成し、該キャップ内には、その内面に沿って該嵌合筒部と嵌脱自在に嵌合する樹脂製のシール部材を設けると共に、該シール部材に、該嵌合筒部よりも上方位置から下方に向かって肉薄な嵌合シール部を形成し、該嵌合シール部が、該嵌合筒部外周面に重なり合って当接するシール面と、該シール面の下側に一連に形成され、径方向外方へ膨出されて該キャップ内面と所定の距離に亘って圧接する環状隆起部と、該環状隆起部の下側に形成され、該嵌合筒部の該ダボに係合する内向き突起とを備えることを特徴とする。

## 【0008】

【作用】 上記構成を有する本発明の棒状化粧料容器によ

10

20

30

40

50



れば、嵌合シール部に、嵌合筒部外周面に重なり合って当接するシール面と、シール面の下側に一連に形成され、径方向外方へ膨出されてキャップ内面と所定の距離に亘って圧接する環状隆起部と、環状隆起部の下側に形成され、嵌合筒部のダボに係合する内向き突起とを備えたので、嵌合筒部及びシール面によるシール箇所と、ダボ及び内向き突起による嵌着箇所とを所定の距離を有する環状隆起部を介して別々に独立させることができるとともに、これら独立させたシール箇所と嵌着箇所との間に、キャップの内周面に所定の距離に亘って当接させてこれに反力をとってシール箇所に向かって圧力をかける、従って嵌着箇所のシール箇所への影響も排除できる弾発箇所を構成する環状隆起部を構成することができ、シール箇所と嵌着箇所とを機能的にも構造的にも離隔させて、相互に干渉しない構成を確保することができ、シール機能を確実に保証することができる。

【0009】また、これらシール箇所、弾発箇所及び嵌着箇所相互は、その機能に必要とされる形を一方から他方へと順次遷移させる形態で、シール部材の軸方向に一連に一体的に無駄なく形成できると共に、このような形態から、弾発箇所をシール箇所に接近させて位置させることができ、シールに必要な当接力を十分に確保することができる。

【0010】従って、シール箇所においては、シール面が嵌合筒部の外周面に接触する当接力を大きく確保することができ、また長期に亘って良好なシール性能を確保することができる。

【0011】

【実施例】以下、本発明を図示の実施例に基づいて説明する。図1及び図2において、棒状化粧料容器1は、筒状容器本体2と、これに装着される筒状のキャップ3とで主に構成される。

【0012】筒状容器本体2は、その外郭を形成する本体筒10と、この本体筒10の内側に配置された身筒20と、身筒20のさらに内側に配置された化粧料皿筒30とからなっている。

【0013】本体筒10の、キャップ3で被われる上方部分には、肉薄な嵌合筒部11が一体的に形成され、この嵌合筒部11にキャップ3が嵌合されるようになっている。またこの嵌合筒部11の外周面の下部には、その周方向に沿って間隔を隔てて、適数個のダボ12が突出形成されている。この実施例では、各ダボ12は、嵌合筒部11の周方向に若干細長く形成されている。

【0014】化粧料皿筒30は、仕切壁31で上下に仕切られ、その上部が化粧料皿32として形成されて、この化粧料皿32に化粧料33が納められている。

【0015】この化粧料皿筒30の繰り上げ機構を構成するために、本体筒10の円筒状内周面には螺旋溝13が刻設されているとともに、他方化粧料皿筒30の下部には、これより外方へ突出させて、係合突起34が形成

されている。そして、この化粧料皿筒30の係合突起34は、身筒20に螺旋溝13の軸方向長さに対応させて形成したスリット21を貫通して、本体筒10の螺旋溝13内に係合している。

【0016】従って、本体筒10を身筒20に対して相対的に回転させると、図2に示すように、螺旋溝13に沿ってスリット21の上限位置まで係合突起34が上昇し、これにより化粧料皿筒30の化粧料33が本体筒10から突出するようになる。

10 【0017】一方、キャップ3の内側には、その内面に沿う筒体状の樹脂製シール部材40が接着剤などの適宜手段によって嵌着固定されており、このシール部材40が本体筒10の嵌合筒部11に対して、嵌脱自在に嵌合するようになっている。

【0018】図1及び図3に示すように、このシール部材40は主に、キャップ3を本体筒10に装着した際に嵌合筒部11よりも上方に位置され、キャップ3の内周面と嵌合筒部11の外周面との間の間隙幅よりも若干厚く形成された筒状の肉厚部41と、この肉厚部41下方の肉薄に形成された筒状の嵌合シール部42とを備えて構成されている。嵌合シール部42は、肉厚部41から順次肉薄に、かつキャップ3内周面から離隔するように形成されたテーパ面43と、これの下側に一連に形成されて本体筒10の嵌合筒部11外周面と重なって当接するシール面44と、このシール面44の下側に形成され、シール部材40の径方向外方へ膨出されてキャップ3の内周面と所定の距離に亘って圧接される環状隆起部45と、この環状隆起部45の下側にさらに形成され、嵌合筒部11のダボ12に下側から係合する断面くの字状の内向き突起46とを備えている。そして、テーパ面43に続くシール面44を形成したことにより、このシール面44の外周面とキャップ3の内周面との間には、間隙47が形成されるとともに、またキャップ3の内周面と所定距離に亘って圧接する環状隆起部45を備えたことにより、この環状隆起部45の内周面と嵌合筒部11の外周面との間にも間隙48が形成され、さらに断面くの字状の内向き突起46を形成したことにより、この内向き突起46の外周面とキャップ3の内周面との間にはさらに間隙49が形成される。

40 【0019】シール部材40の内向き突起46は、キャップ3を筒状容器本体2に被せた際、嵌合筒部11のダボ12を乗り越え、この乗り越えによって内向き突起46がダボ12に下側から係合することで、筒状容器本体2とキャップ3との嵌合状態を保持する嵌着部Cとして機能する。

50 【0020】またシール部材40のシール面44は、嵌合筒部11の外周面に重なり合うことで、キャップ3と筒状容器本体2との間の気密を確保するシール部Aとして機能する。そしてこの際、環状隆起部45がキャップ3の内周面に圧接する部分が、当該シール部分Aに対し

て圧力をかける弾発部 B として機能することになる。

【0021】特に、環状隆起部 45 は、シール部 A を構成するシール面 44 と嵌着部 C を構成する内向き突起 46 との間で、キャップ 3 の内周面に対して所定の距離に亘って当接するように構成され、そして上記したように、この環状隆起部 45 はキャップ 3 の内周面に圧接してシール部分 A に圧力をかける機能を奏することから、ダボ 12 と内向き突起 46 との嵌着状態がシール部 A に影響することを防止することができる。

【0022】このような構成によれば、シール部 A と嵌着部 C とを別々に独立させることができるとともに、これら独立させたシール部 A と嵌着部 C との間に、キャップ 3 の内周面に所定の距離に亘って当接させてこれに反力をとってシール部 A に向かって圧力をかける、従って嵌着部 C のシール部 A への影響も排除できる弾発部 B を構成する環状隆起部 45 を構成することができ、シール部 A と嵌着部 C とを機能的にも構造的にも離隔させて、相互に干渉しない構成を確保でき、シール機能を確実に保証することができる。また、これらシール部 A、弾発部 B 及び嵌着部 C 相互は、その機能に必要とされる形を一方から他方へと順次遷移させる形態で、シール部材 40 の軸方向に一連に一体的に無駄なく形成できると共に、このような形態から、弾発部 B をシール部 A に接近させて位置させることができ、シールに必要な当接力を十分に確保することができる。従って、シール部 A においては、従来のようにシール部と嵌着部とが互いに影響し合うおそれのある構成（図 5 参照）と比べ、シール面 44 が嵌合筒部 11 の外周面に接触する当接力を大きく確保することができ、また長期に亘って良好なシール性能を確保することができる。

#### 【0023】

【発明の効果】以上のように、本発明に係る棒状化粧品容器では、シール部材に、嵌合筒部よりも上方位置から下方に向かって肉薄な嵌合シール部を形成し、嵌合シール部が、嵌合筒部外周面に重なり合って当接するシール面と、シール面の下側に一連に形成され、径方向外方へ膨出されてキャップ内面と所定の距離に亘って圧接する環状隆起部と、環状隆起部の下側に形成され、嵌合筒部のダボに係合する内向き突起とを備えたので、嵌合筒部及びシール面によるシール箇所と、ダボ及び内向き突起

による嵌着箇所とを所定の距離を有する環状隆起部を介して別々に独立させることができるとともに、これら独立させたシール箇所と嵌着箇所との間に、キャップの内周面に所定の距離に亘って当接させてこれに反力をとってシール箇所に向かって圧力をかける、従って嵌着箇所のシール箇所への影響も排除できる弾発箇所を構成する環状隆起部を構成することができ、シール箇所と嵌着箇所とを機能的にも構造的にも離隔させて、相互に干渉しない構成を確保できて、確実なシール性能を保證することができる。

【0024】また、これらシール箇所、弾発箇所及び嵌着箇所相互は、その機能に必要とされる形を一方から他方へと順次遷移させる形態で、シール部材の軸方向に一連に一体的に無駄なく形成できると共に、このような形態から、弾発箇所をシール箇所に接近させて位置させることができ、シールのための十分な当接力を確保することができる。

【0025】従って、シール箇所においては、シール面が嵌合筒部の外周面に接触する当接力を大きく確保することができ、また長期に亘って良好なシール性能を確保することができる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の一実施例に係る棒状化粧品容器を、キャップを装着した状態で示した断面図である。

【図 2】本発明の一実施例に係る棒状化粧品容器を、キャップを取り外した状態で示した断面図である。

【図 3】図 1 の要部拡大断面図である。

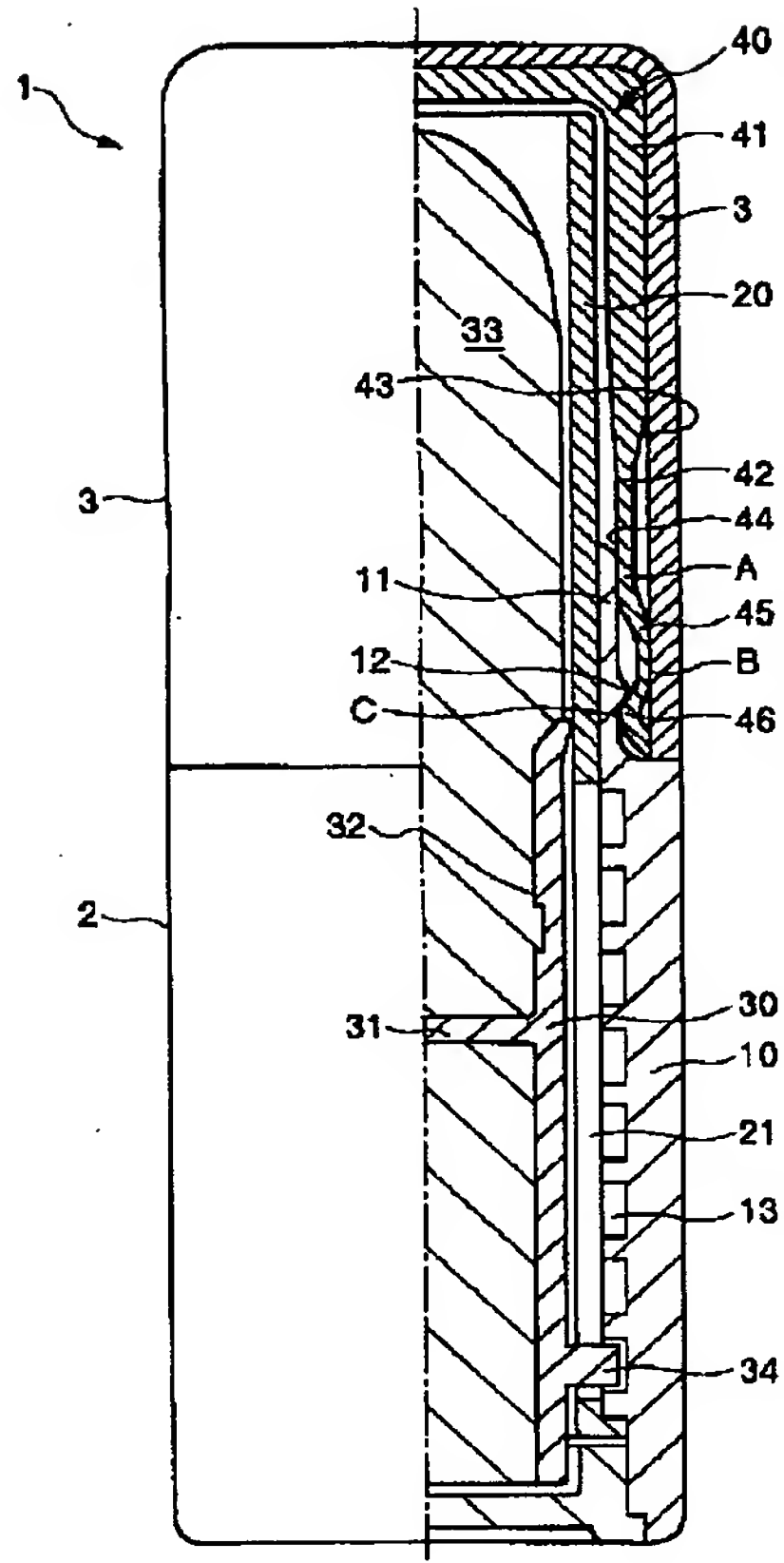
【図 4】従来の棒状化粧品容器の一例を示す断面図である。

【図 5】図 4 の一部拡大断面図である。

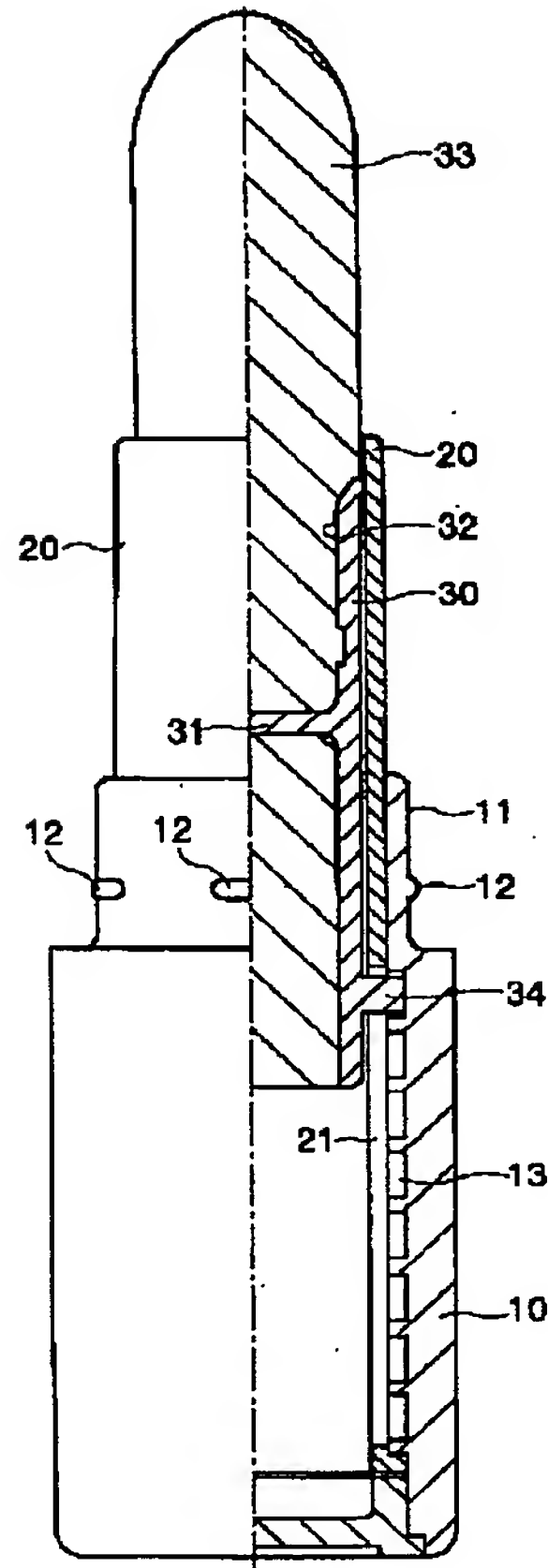
#### 【符号の説明】

1	棒状化粧品容器	2	筒状容器本体
3	キャップ	10	本体筒
11	嵌合筒部	12	ダボ
20	身筒	30	化粧品皿筒
40	シール部材部	42	嵌合シール部
44	シール面	45	環状隆起部
46	内向き突起		

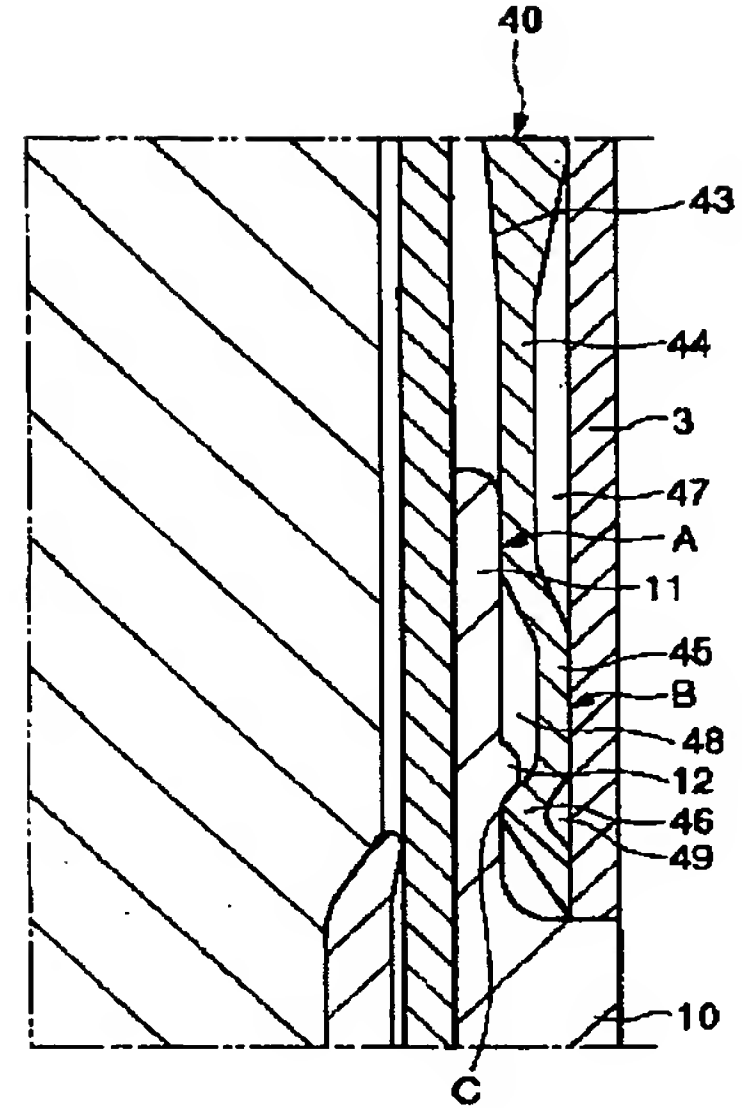
【図1】



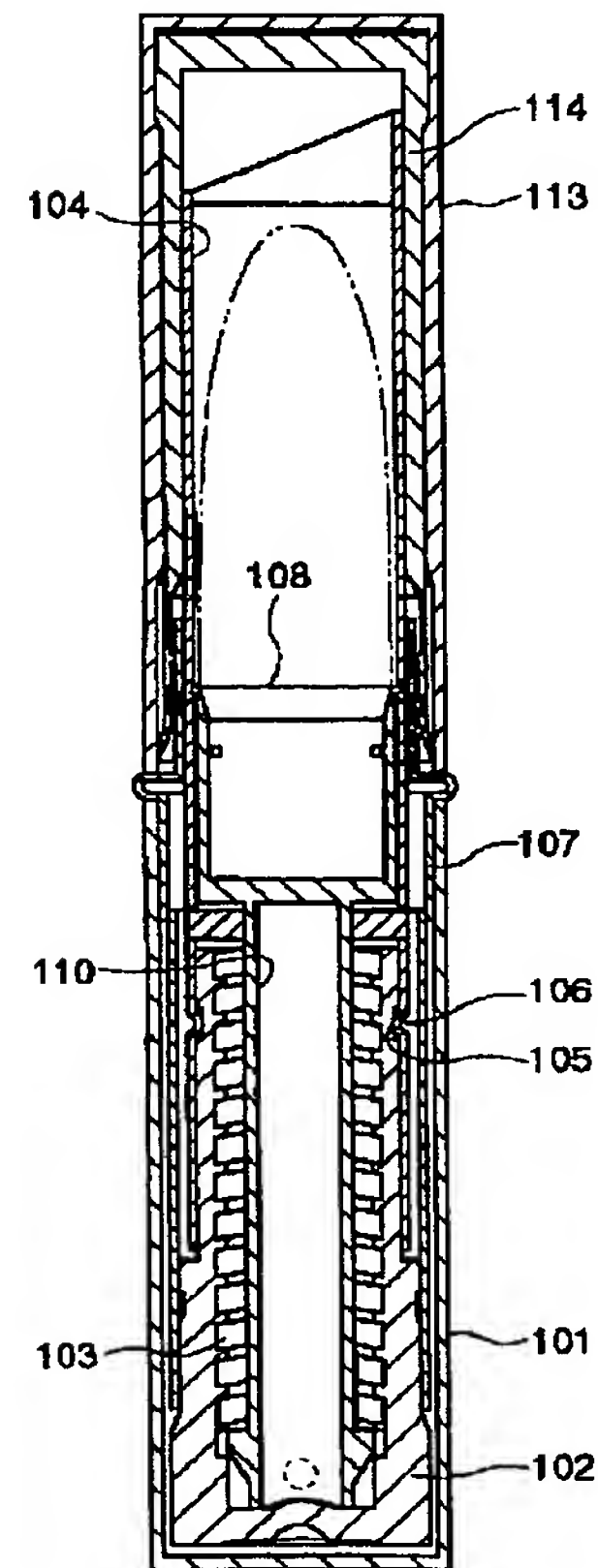
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

